

音楽科学習指導案

令和8年5月27日(水) 5校時 音楽室

授業学級 3年E組(40名)

授業者 青木 みのり

1 題材名 「『花』の情景や心情を歌で表そう」

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。 技 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	思 旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	態 旋律と言葉との関係に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

3 基礎的研究

(1) 生徒の研究

前題材「大地讃頌の背景を考えよう」では、教師は、学習問題を「大地讃頌は、なぜpで始まるのだろうか」と設定し、生徒は、「土の歌」各楽章の歌詞や強弱、楽器の音色に着目して、作者の思いを考えた。T生は、題材終末の振り返りにおいて、「戦争の怒りと悲しみをこれからの未来に伝える。その過去や大地に立たされていることを実感せねばならない。その人間の愚かさや弱さ、私たちができることは何かを考えるために『大地讃頌』はpで始まる。」と記述した。これは、音楽の特徴とその背景となる歴史との関わりを理解できた姿だと捉える。また、本学級の生徒に行ったアンケートでは、「音楽の授業の中で好きな領域は何ですか？(複数回答可)」という問いに対しては、「鑑賞すること」が約78%と最も多く、対して「歌うこと」や「楽器を演奏すること」は約50%、「作曲・編曲すること」は8%にとどまった。これらのことから、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができても、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することに難しさや苦手意識を感じている生徒もいるのではないかと考える。

(2) 素材の研究

本題材で扱う楽曲「花」は、1900年に発表された組歌「四季」の第1曲である。作曲者の滝廉太郎は、明治時代の文明開化期に西洋音楽を取り入れ、日本歌曲の基礎を築いた代表的な作曲家である。ドイツ留学を控えた彼が、見事に西洋の旋律と日本語の美しさ(作詞:武島羽衣)を融合させた「花」は、1番から3番にかけて、旋律、テクスチャ、強弱を少しずつ変化させながら、日本語のもつ美しさをさらに引き出している。1番では、春のやわらかい日ざしを浴びた隅田川を、2部合唱で表現されている。2番では、夜明けの桜や夕暮れの美しさを各パートのソロで表されている。そして3番では、おぼろ月の幻想的な風景がpで表現され、「眺めを何にたとうべき」が上行系の旋律で表現されている。このように、楽曲「花」のよさは、テクスチャや旋律に着目して1番と2番を比較することで、1番の華やかさをハーモニーで表したり2番の寂しさを下行系の旋律表したりしていることに気付くことができることである。また、強弱や旋律に着目して1番と3番を比較することで、感動をあえてpで表したり上行系の旋律で高まる気持ちを表したりしていることに気付くこともできると考える。これらの音楽を形づくっている要素に着目し、表現を創意工夫しながらも歌唱に必要な技能を高めていける学習を構想しようと考えた。

(3) 教材化の研究

本題材の楽曲との出会いの場面で、歌詞に注目する生徒が出てくるだろう。教師は、歌詞を現代の言葉に置き換えたものを提示する。生徒は、歌詞から情景を想像したり心情を感じ取ったりし、友と感じ取ったことを共有することで、イメージをふくらませていこう。教師は、そのイメージはどのような歌唱で表せるのか問い掛けながら、題材の学習問題「歌詞から想像した情景や感じ取った心情を表現するには、どのように歌えばよいだろうか。」を設定する。このような単元の学習問題を設定することで、生徒は、楽曲を分析して本題材のよさを実感しながら歌唱表現を行っていくと考えた。

第2時、教師は、1番と2番が視覚的に比較しやすい楽譜を提示する。生徒は、1番は二部合唱なのに対して2番はパートソロからなるテクスチャや、3～4小節目の旋律の変化に気付くだろう。

第3時、これまでに学習したことを基に、「おぼろ月」のpや「眺めを何にたとうべき」の上行系の旋律に着目する生徒が出てくるだろう。そこで、教師は、どのような練習形態で追求したいかを問い掛け、個人、ペア、グループで追求するよさを確認する。生徒は、旋律や強弱に着目して、個人、ペア、グループといった練習形態をそれぞれが選択して表現を工夫していこう。また、pを「弱い」という単なる強弱記号としてではなく、「弱いけど光り輝くような芯のあるp」のように意図をもって歌う中で、「言葉をはっきり発音するとともに、息をたっぷり吸いたい」のように考え、歌い試すだろう。そして、思いや意図を歌唱表現しようと歌い試していく中で、表現するために必要な技能を身に付けていくことだろう。

このように、技能の習得に関する学習を創意工夫の過程に位置付けることによって、生徒が必要を感じながら、発声、言葉の発音などの技能を身に付けられるようになると考えた。

4 題材展開 表現を創意工夫しながらも歌唱に必要な技能を身に付ける学習

全3時間扱い 本時は第3時

段階	◆ <u>ねらい</u> ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」	評価の観点	時間
	・教師の指導、支援 ■生徒の活動		
導入	<p>◆『花』の歌詞の内容を理解し、情景を想像したり、心情を感じ取ったりする。</p> <p>・滝廉太郎が『花』を作曲した背景を伝える。</p> <p>■2声に分かれ、音取りを行い、歌詞カードや写真をもとに情景を想像したり心情を感じ取ったりする。</p> <p>・歌詞を現代の言葉に置き換えたものを提示し、想像した情景や感じ取った心情を共有する場を設け、単元の学習問題「歌詞から想像した情景や感じ取った心情を表現するには、どのように歌えばよいだろうか。」を設定する。</p>	○技 ●知 ●態	1
展開	<p>◆<u>旋律の動きやテクスチャに着目して、歌唱表現を創意工夫する。</u></p> <p>■1番と2番を比較する中で、旋律の変化やテクスチャが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。</p> <p>・学習課題「旋律やテクスチャに着目して、1番と2番にそれぞれ合う表現方法を考えよう」を据える。</p> <p>■旋律の動きやテクスチャに着目して、練習形態（個人、ペア、グループ等）を各自で選択し、情景や心情を表現するための工夫を考えながら歌う。</p>	●思	1
終末	本時案参照	●技 ○思	1

5 本時案

- (1) 題材名・学年 「『花』の情景や心情を歌で表そう！」
- (2) 主眼 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している
歌詞から想像した情景や感じ取った心情を音楽で表現するにはどのように歌えばよいかを考える
場面で、旋律や強弱に着目し、「おぼろづき」「ながめをなにに」の情景や心情の表し方を見い
だすことを通して、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な、発声や言葉の発音の技能を身に付
けて歌うことができる。 【A ウ(ア)】
- (3) 題材の学習問題：歌詞から想像した情景や感じ取った心情を音楽で表現するには、どのように歌
えばよいだろうか。
- (4) 本時の位置 (全3時間中 第3時)
前時：1、2番を、旋律の動きやテクスチャに着目してその部分にふさわしい表現を考え、練
習形態を選択して実際に歌い、再度3番の歌詞の意味を確認した。
- (5) 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の指導・助言 評価	時間
導入	1. 本時の学習の見通しをもつ。	<p>題材の学習問題：歌詞から想像した情景や感じ取った心情を音楽で表現するには、どのように歌えばよいだろうか？</p> <p>ア 「ながめをなにに」の旋律は、1番と違って3番は音が上がっている。なぜ挙がっているのだろうか。また、「おぼろづき」の強弱だけpになっている。pは「大地讃頌」と同じで作曲者が大切にしたい部分なのではないか。</p> <p>イ 旋律や強弱に着目すれば、自分の想像する情景や心情が表現できそうだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3番の歌詞から想像した情景や感じ取った心情を再確認し3番の楽譜を配付した後に、1番と比較して異なる部分を友と見つける場を設ける。 ・ア、イのような意見を取り上げ、全体で共有し、学習課題を据える。 	10分
展開	2. 練習形態を選択して歌い試す。	<p>ウ 「おぼろづき」のpは、暗い空の中にぼんやりと輝く月の情景を表しているのではないか。このイメージをもって、まずは一人で歌い試してみよう。</p> <p>エ 「ながめをなにに」は、儂い心情になるように、友と一緒に歌ってみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情景や心情を表すために必要な練習形態を各自で選んで追求する場を設ける。 ・ウのような情景と心情の両方を取り上げ、エの反応から全体追求を提案する。 	15分
	3. 全体で共有し、歌い試す。	<p>オ pの中でも、情景や心情の解釈によって、表現の方法が違いそうだ。例えば、友の言っていた「うっとりした気持ち」の心情を表すには、私の思うpよりも明るく艶のある声で歌った方がよさそう。</p> <p>カ 実際に歌ってみるとpって難しい。自分の思い描くpの音にするには、どうすればよいのだろうか。</p> <p>キ 「ながめをなにに たとうべき」は、桜や青柳やおぼろ月などの美しい景色を眺めている時の、言葉にできないくらい高まる気持ちをクレッシェンドに込めてみたい。そのために「に」のfは、お腹から声を響かせ、ホールいっぱい響くような感じで発声しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情景や心情、表現方法について発信する場を設け、具体的にはどのように歌唱するかを問い掛け、歌唱を通して友に伝えるように促す。 ・カのような意見を取り上げ、温かい息での発音や息をたくさん吸うことを伝える。 ・キのような意見を取り上げ、あえて真逆のデクレッシェンドを試してみるように促す。 ・クレッシェンドの頂点の場所を問い、頂点前の「に」は空気をたくさん含んだ声で歌うように助言する。 	15分
終末	4. 学習を振り返る。 5. 「花」を通して歌う。	<p>ク 強弱や旋律の動きを意識して歌ってみると、最初に歌った時よりも、「花」の表す満開の桜や幻想的な月の光、そして「この美しい景色をずっと眺めていたい」という儂い心情がより鮮明に表現できることが分かった。</p> <p>ケ 3番では、「おぼろづき」をぼんやりと見える美しい月を表現するために発音をはっきり、たっぷり息を吸って、温かい息のpで歌うことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題に対する自分の考えを記述する場を設ける。 <p>創意工夫を生かした表現で歌うために必要な、発声や言葉の発音の技能を身に付けて歌っている。 (観察・ワークシート・後日行う歌唱テスト)</p>	10分